

長期戦略の策定と実行: 開発銀行の役割 (11月9日 IDFC・パビリオン)

本イベントは、フランス開発庁 (Agence Française de Développement: AFD) と JICA の共催で国際開発金融クラブ (The International Development Finance Club: IDFC) パビリオンで開催され、「長期低排出 GHG 開発戦略 (LT-LEDS または LTS: 以下、長期戦略)」のプロセスにおいて考慮すべき次の2つの重要な側面に焦点を当てて議論した。(1)策定: 長期シナリオ評価と気候変動の社会経済的影響の開発計画への統合による長期戦略の策定プロセスの支援、(2)実施: 長期戦略を地域や地方の状況に適した実行可能なアクションに変換する努力、及び能力開発、資金調達のためのマルチステークホルダー関与 (民間部門) など実施手段を強化すること。

まず、AFD から本イベントの背景や目的を述べた後、ベトナム天然資源環境省のファム・ヴァン・タイン副大臣 (気候変動担当) が、同国がカーボンニュートラルを目標とした為にどのように長期戦略を改定したかを説明した。カンボジアのマオ・ハク博士 (環境大臣の下にある持続可能な開発のための国家評議会の事務局長・気候変動担当) は、同国が開発銀行の支援を受けて長期戦略を策定し、適応とのコベネフィットを追求した経験を紹介した。

AFD のマルゴ博士は、AFD が開発したマクロ経済ツールを用いて、低炭素化がマクロ経済にどのような影響を及ぼすかを検討した研究に関して、特にベトナムやインドネシア、カンボジア等の分析結果を報告した。国立環境研究所の増井利彦博士は、「アジア太平洋統合評価モデル (Asia-Pacific Integrated Model: AIM)」を各国の長期戦略策定に適用した経験を紹介し、研究者とステークホルダーの両方を対象としたトレーニングやワークショップを行っていることを報告した。

JICA 気候変動対策室三戸森宏治副室長は JICA が各国で行っている長期戦略策定支援について説明し、ベトナムでの能力強化の事例を紹介した。AFD から AFD の気候戦略を説明し、カンボジアでの長期戦略策定を例に、多様なステークホルダーの参画が必要であると強調した。地球環境戦略研究機構 (IGES) の田村プログラムダイレクターと福田専門家は、長期戦略の策定においては、

社会的に公正な変化を目指すべきであり、策定後のフォローアップを工夫する必要があると述べた。

最後に、AFD が開発パートナーと各国政府、特に財務省が協力して長期戦略を構築する重要性を述べて、閉会した。